

二月の晴れた一日、五歳児のクラスにい  
 ったとき。庭で熱心に遊んでいる一群の子  
 どもたちを見た。その中の一人の男の子に  
 目をとめて私は半日を過ごした。その子ど  
 もは、砂場で石の粉をつくっていた。砂場  
 はいま、砂を全部出してあり、底に敷いて  
 あったコンクリートのかたまりや石がむき  
 だしになっている。石板にコンクリートの  
 かけらをすり合わせると、白い細かい粉が  
 少しずつ落ちる。それを小さな器にため  
 る。ときどき隣の子どもと話をするが、ほ  
 とんどだまってしている。

この子はその粉を「くすり」といって  
 る。自分の手で作った生産物が、くすりに  
 なるのはおもしろい。一時間近くたったこ  
 ろ、ほかの子どもがふるいにかけた茶色い  
 土をもってきて、その白い粉にまぜた。そ  
 の子は水を少し加えてこねていたが「やっ  
 ぱりだめになったじゃないか」と一時間を  
 かけて作ったその粉を砂場の中に捨ててし  
 まった。「くすり」は彼にとって純粋でな  
 ければならなかったのである。

その子はその粉から室内に入って、画用紙  
 に、三センチくらいに切ったセロテープ

を、三行三列にきれいに張りつけた。もし  
 て一枚ずつに違う色のマジックで模様をつ  
 けた。たんねんな仕事で三十分以上かか  
 る。石の粉で作りがきれなかった純粋なもの  
 が、ここで実現したように思われる。この  
 子は昼食時まで、この二つの仕事をして過  
 ぎした。五歳三学期の就学直前の時期に、  
 これではいけないと批判が出るだろうか。

最近ではNHKのテレビにまで、文字や数  
 や、外国語や体育の訓練をしないと、時代  
 におくれるようなあせりを親や教師にいだ  
 かせざる番組が出てくる。幼児の環境から、  
 緑の木や土がなくなっていくだけでなく、  
 幼児自身の空間や時間までもが侵されつつ  
 ある。幼児期にゆっくりと生活し、大きな  
 夢を追うことができるようになっていなか  
 ったら、子ども自身も、世の中も、どうな  
 ってゆくことだろう。さきの子どもをまね  
 て同じようなデザインを作り始めたほかの  
 子に対して、その子は「〇ちゃんはきつと  
 僕よりうまくできると思うよ」といって、  
 作り方を教えている。子どもに空間と時間  
 を与えよ、といわねばならないのが最近の  
 世相である。

(津守)

## 幼児の教育 第七十巻 第五号

五月号 © 定価一〇〇円

昭和四十六年 四月二十五日印刷  
 昭和四十六年 五月 一日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真  
 発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ二

印刷所 凸版印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売  
 所フレーベル館にお願いいたします